

話題

ワコーパレット

新・RFIDソリューション提供開始

長距離読取、3種のタグをラインナップ

物流機器の販売・レンタルを手がけるワコーパレット（本社・大阪市中央区、古田雅也社長）は、高耐久で、耐金属性・耐水

物流機器の販売・レンタルを

性に優れ、業界最高水準の読み

手がけるワコーパレット（本社・

取り距離を実現した「RFID

大阪市中央区、古田雅也社長）

ソリューション」を提供開始し

は、高耐久で、耐金属性・耐水

た。

この「RFIDソリューション」は、4月から施行された改正物流効率化法により、物流現場での省力化・効率化に迫られているユーザーから、資産の所在管理運用を改善したいという声を受けて開発したサービス。同社が提供する商材に対してRFIDタグと読み取りリーダーをセットでレンタルするほ

か、ユーザーが既に保有している自社資産（既設品）へのタグの後付けも可能だ。

多彩な高性能タグで 様々な環境に対応

RFIDタグは、薄く柔軟性が高いラベル仕様で、パレットやコンテナ、カゴ台車など様々な物流機器に対応できる。使用可能な温度帯は上限が85℃、下限がマイナス30℃のため、屋内外や冷凍冷蔵倉庫など、様々な現場で導入可能だ。

標準タグのほか、フォークリフト重量にも耐えられる「耐衝撃タグ」、従来のRFIDが苦手としていた金属・液体の近接環境でも安定して読み取り可能な「耐金属／耐液体タグ」があり、用途に応じてタグを選択できる。

読み取り可能距離は最長16mで、目視確認が困難な倉庫の奥や、ネステインダボックスの高

所エリアで保管している荷物の管理にも有効だ。

読み取ったデータは、資産管理用のプラットフォームへ自動的に連携することができ、手作業による管理作業を削減し、効率的に運用が可能だ。

また、倉庫の床やラックにもRFIDタグを設置することで、在庫の位置管理が可能になる。これらの機能により、出庫管理や梱卸業務などの数量管理の効率化・省力化につながるほか、位置情報を含めたりリアルタイムな在庫管理が実現できる。

現場課題に応じた DXソリューションを提供

ワコーパレットは、深刻化す

る人手不足を背景とした物流機器の利用拡大や、それに伴う管理の負担とコストの増大により、物流DXの需要が高まると睨んでいる。

2023年7月には、カゴ台車やスリムカート、パレットなどの物流機器の滞留・紛失を防ぐ位置情報管理サービス「LPIWATS」を販売開始した。受注件数は2万台に迫る勢いで拡大しており、さらなる市場拡大を見込んでいる。

会社では、「RFIDソリューション」と「LPIWATS」を軸に、様々な現場課題に応じたIoT・RFIDソリューションを物流現場に提案していく方針だ。



様々な物流機器に対応可能



読み取り可能距離は業界最長水準